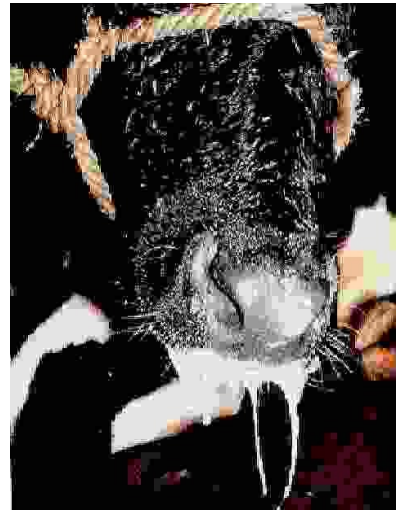


口蹄疫 とは



1 原因(病原体)

口蹄疫ウイルス
(Picornaviridae Aphthovirus)

2 感受性動物

牛、めん羊、山羊、豚、
水牛、鹿、いのしし等

3 症状

【多量のよだれ】

突然40～41℃の発熱、元気消失に陥ると同時に多量のよだれがみられ、口、蹄、乳頭等に水疱(水ぶくれ)が形成され、足を引きずる症状がみられる。

4 発生状況

(1)国内:

明治41年(1908年) 東京、神奈川、兵庫、新潟 522頭

平成12年(2000年) 宮崎(3～4月:3戸), 北海道(5月:1戸)

患畜・疑似患畜 740頭 [92年ぶりの発生]

平成22年(2010年)宮崎(292例)患畜・疑似患畜210,714頭[10年ぶりの発生]

※)日本は平成23年2月4日に清浄国に復帰。

(2)海外:オセアニアと北米以外の世界中で発生がみられる。

5 診断

(1)臨床症状の確認とともに、遺伝子又は抗体の検出を行う。

(2)水疱材料等からのウイルス分離を行う。

6 予防法

我が国では、多くの諸外国と同様に、原則として感染動物の摘発ととう汰による清浄化を実施。また、緊急接種用の不活化ワクチンの備蓄、水際での厳重な検疫を実施。

なお、本病の常在国等では不活化ワクチンが使用されている。しかし、ワクチン接種動物は、①感染を完全に防御できず、②感染動物はワクチン接種動物との判別が難しいことから、本病を見逃し、感染源となる可能性がある。

7 治療法、対策

(1)治療は行わない。

(2)発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づき、まん延防止のため家畜の所有者によると殺が義務付けられている。